

令和4年度の日本気象学会中部支部賞は、山中晴名会員（三重大学）「洋上直接観測データで視る北海道西岸帯状雲」および岩寄利勝会員（富山県高岡市立中田中学校）「生徒の主体的な学びを生かす中学校気象防災教育の実践」に贈呈されました。

#### **受賞理由：三重大学 山中晴名会員**

北海道西岸帯状雲や石狩湾小低気圧は、北海道の石狩平野に大雪をしばしばもたらすことが知られている。しかし、その発生・発達要因については、その内部構造を海上で直接観測した例がないため、海上部分の推定がどの程度正しいものか不明であった。山中会員は、日本海観測隊の一員として、石狩湾小低気圧にともなう帯状雲の洋上観測を行った。その観測結果と気象庁メソ数値予報モデル（MSM）を比較した結果、MSMが小低気圧の強度を過小に予想しており、その要因が観測で見られた利尻島沖の海面水温の急勾配がMSMの下部境界値である海面水温（HIMSST）で表現できていないことによるとの仮説を立てた。この仮説を立証するため、利尻島以北の海域の海面水温を冷やした数値実験、これに加え利尻島以南の海面水温を暖めた数値実験等を行い、利尻島沖の海面水温の急勾配が小低気圧の発達に関連していることを示唆した。このように、観測事実や数値シミュレーションに基づいてあらたな知見を得るとともに、本研究について誰もが理解しやすい明快なプレゼンテーションを行った。以上の理由から、支部長賞に選定した。

#### **受賞理由：富山県高岡市立中田中学校 岩寄利勝会員**

岩寄会員が中田中学校で実践している防災教育として、①校内の気象観測やインターネット上の数値予報データに基づいた気象への理解といった、体験を通じた天気予報の科学的理解の推進、②インターネットを活用した情報の信頼性の学習やハザードマップを活用した情報収集方法の検討、③地域住民へ公開する前提での生徒による地域の防災に関するビデオの作成、などの取組がなされている。こうした防災教育は、総合的な学習の時間に行われることが期待されているものの知識不足等により、実践例は少ないことから、ある程度の気象防災の知識を持つ理科と技術科の担当教官により進められた。このように、実施が可能な方法を検討し、実践・体験を積極的に取り入れ、また、地域の方々の協力を得て取組の動機付けを高めるなど、生徒が主体的に取り組むことができる多くの工夫を凝らした防災教育を推進している点で、他の学校での取組の模範となると考える。また、今後の取組の広がりも期待できる。以上の理由から、支部長賞に選定した。